ヒロセ電機株式会社

2020 年 3 月期第 3 四半期 決算説明会

2020 年 2 月 6 日

イベント概要

[企業名]	ヒロセ電機株式会社
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2020 年 3 月期　第 3 四半期 決算説明会
[決算期]	2019 年度　第 3 四半期
[日程]	2020 年 2 月 6 日
[時間]	10:30 – 11:31 （合計：61 分、登壇：38 分、質疑応答：23 分）
[開催場所]	100-0005　東京都千代田区丸の内 1-8-2　鉄鋼ビルディング内 4F 鉄鋼カンファレンスルーム「Room 2+3+4」
[会場面積]	349 ㎡
[登壇者]	2 名 取締役　管理本部長　　福本　広志（以下、福本） 管理本部　IR 室長　　須崎　英雄（以下、須崎）

登壇

須崎：おはようございます。定刻になりましたので、ただ今よりヒロセ電機の決算説明会を開会させていただきます。

本日はご多忙の中ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。ヒロセ電機 IR 室の須崎でございます。本日、進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず最初に受付でお配りしました資料の確認でございます。一番上に本日の説明会資料がございます。その下に昨日東証で開示しました決算短信とプレスリリース 1 枚が入っており、3 部構成になっております。もしお手元にない方は、こちらからすぐお届けしますのでご確認お願いいたします。よろしいでしょうか。

それから本日の説明会資料の英語版を、後ほど私どものホームページにも東証にも開示いたします予定ですけれども、受付にも何部か用意しておりますので、必要な方はお帰りに受付にお寄りになって、お持ち帰りください。

それでは始めさせていただきます。

2019年度 第3四半期累計 （2019/4 ～ 2019/12） ビジネス概況

HRS

2019年度 第3四半期 累計 （4月～12月）	受注高 **934.3** 億円 （対前年同期比 -4.1%） 売上高 **915.3** 億円 （対前年同期比 -4.6%） 営業利益 **162.1** 億円 ※利益率 **17.7**% （対前年同期比 -18.9%）

米中貿易摩擦による景況感の悪化や中国景気減速、自動車販売不振(欧米、中国等) による停滞感が継続しており、減収・減益となった。

一般産機

一般産機市場向け売上は、昨年度後半から続いていた減少傾向に歯止めがかかったものの、回復に時間がかかっており、対前年同期比では、-19%となった。

スマートフォン

スマートフォン市場向け売上は、2Qに比べ3Q売上は減少したものの、高水準を維持し、対前年同期比 +5% となった。

自動車

自動車市場向け売上は、自動車の販売不振の影響で、既存品の減少が続いており、対前年同期比 +1% となった。

3

まず最初 3 ページ、ビジネス概況となっております。

第 3 四半期の累計としまして、受注高 934.3 億円、前年同期比でマイナス 4.1%でございます。売上が 915.3 億円、前年同期比マイナス 4.6%。営業利益が 162.1 億円、利益率が 17.7%。前年同期比でマイナス 18.9%という減収減益という結果でございました。

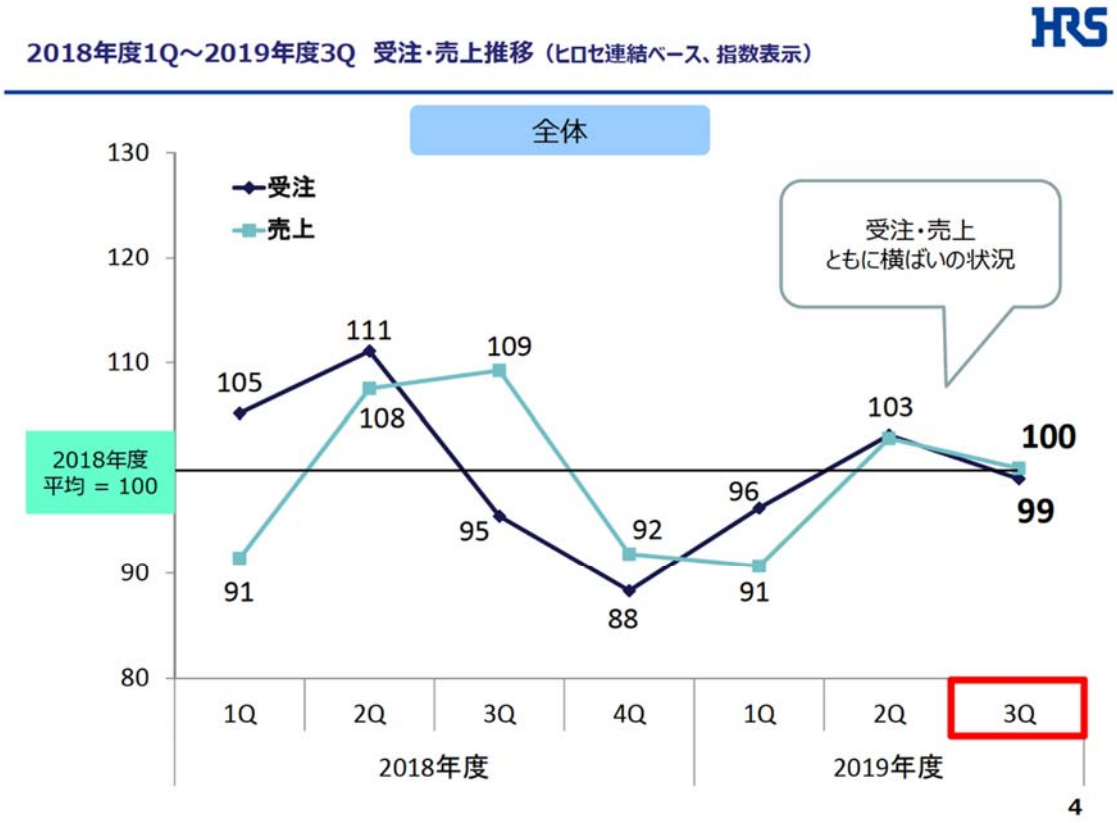
アプリケーション別にこの第 3 四半期の総括的なところからまず申し上げますと、第 2 クォーターと傾向としては同じような感じで進んでしまったというところでございます。詳細につきましては、また個別に織り込んで申し上げようと思います。

全体感としましては米中貿易摩擦によります、春場の 5 月、6 月にかけての景況感の悪化や、中国景気減速、自動車販売不振等によりまして停滞感が継続しており、減収減益という結果であります。

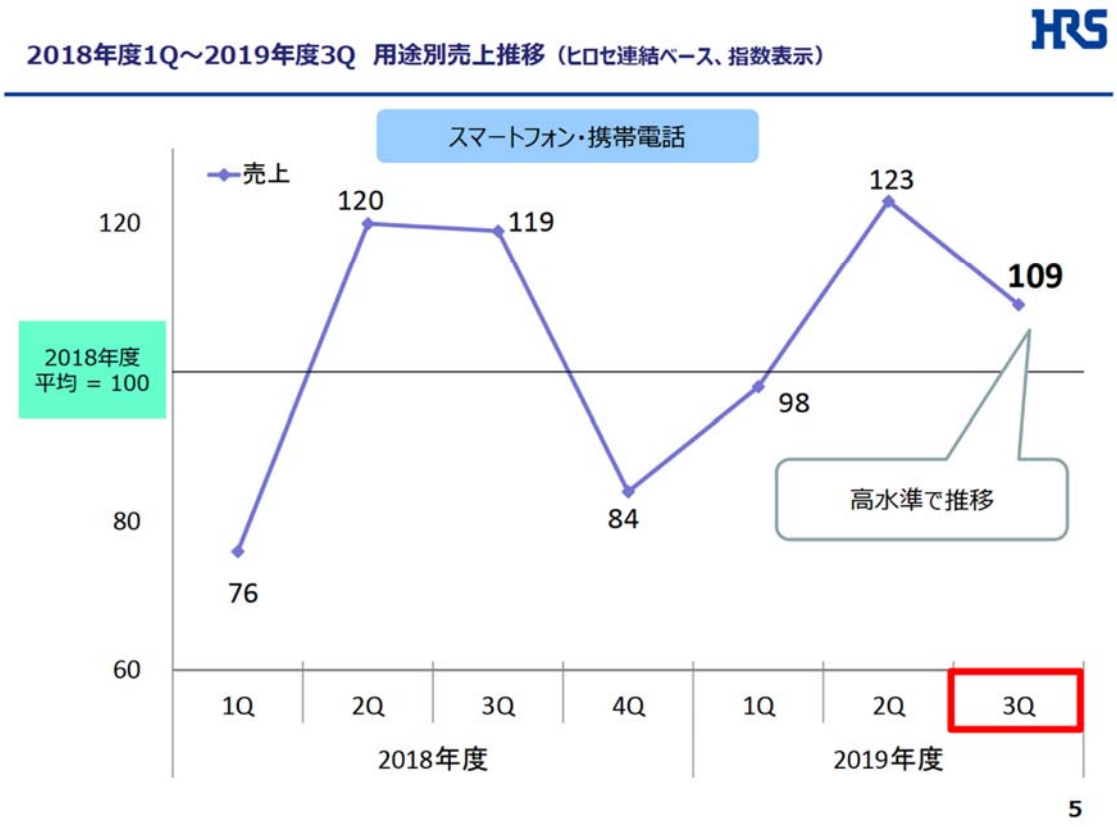
一般産機向けの売上に関しましては、昨年度後半から続いていた減少傾向に歯止めはかかっているんですけれども、回復に時間がかかっておるというところです。第 3 クォーターも当初の見込みよりもやや弱かったという結果でございます。累計にしまして、前年同期比でマイナス 19%という結果であります。

スマートフォン向けの売上に関しましては、2Q に比べまして 3Q は減少はしたんですけれども、水準としてはまずまず高水準を維持しておりまして、対前年同期比プラス 5%という結果でございます。

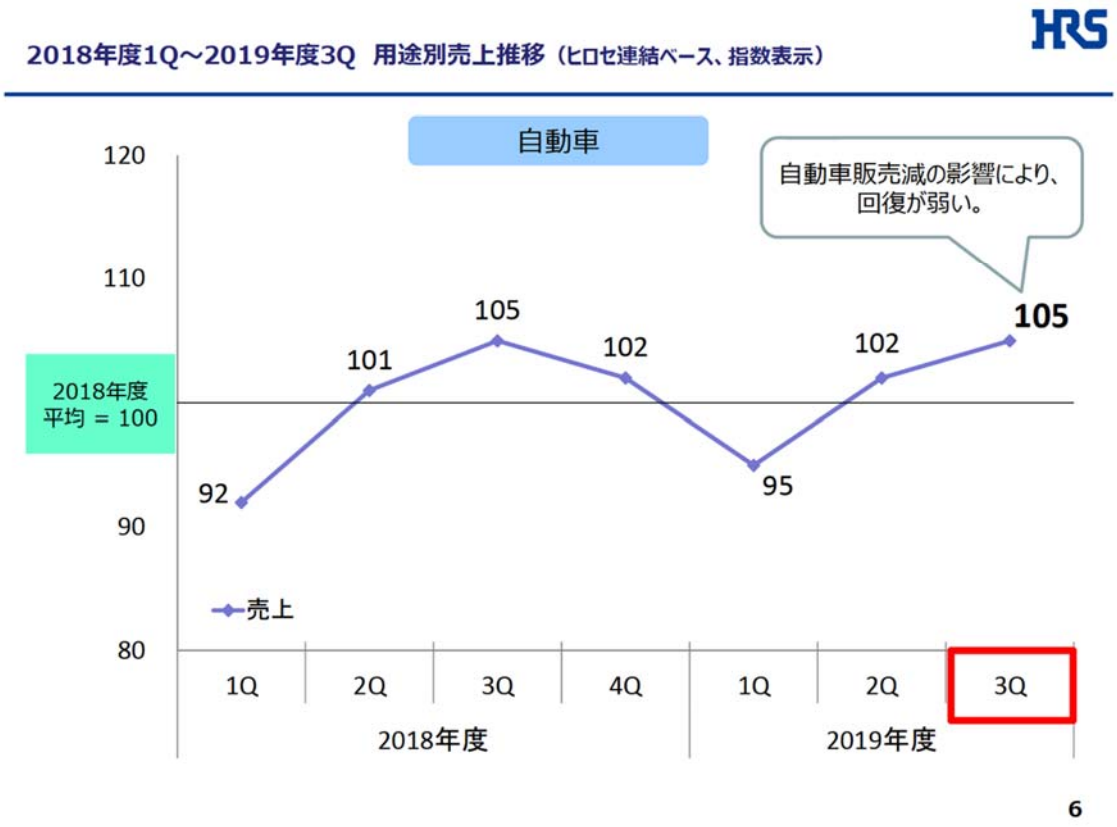
自動車向けの売上に関しましては、自動車自体の販売不振の影響で既存品の減少が続いているというところであります。新製品の投入は計画どおり私どもは進めておりまして、そちらの販売状況はほぼ計画に近いものがありますが、既存品の減少というところで、対前年同期比ほぼ横ばいのプラス 1%に終わっております。



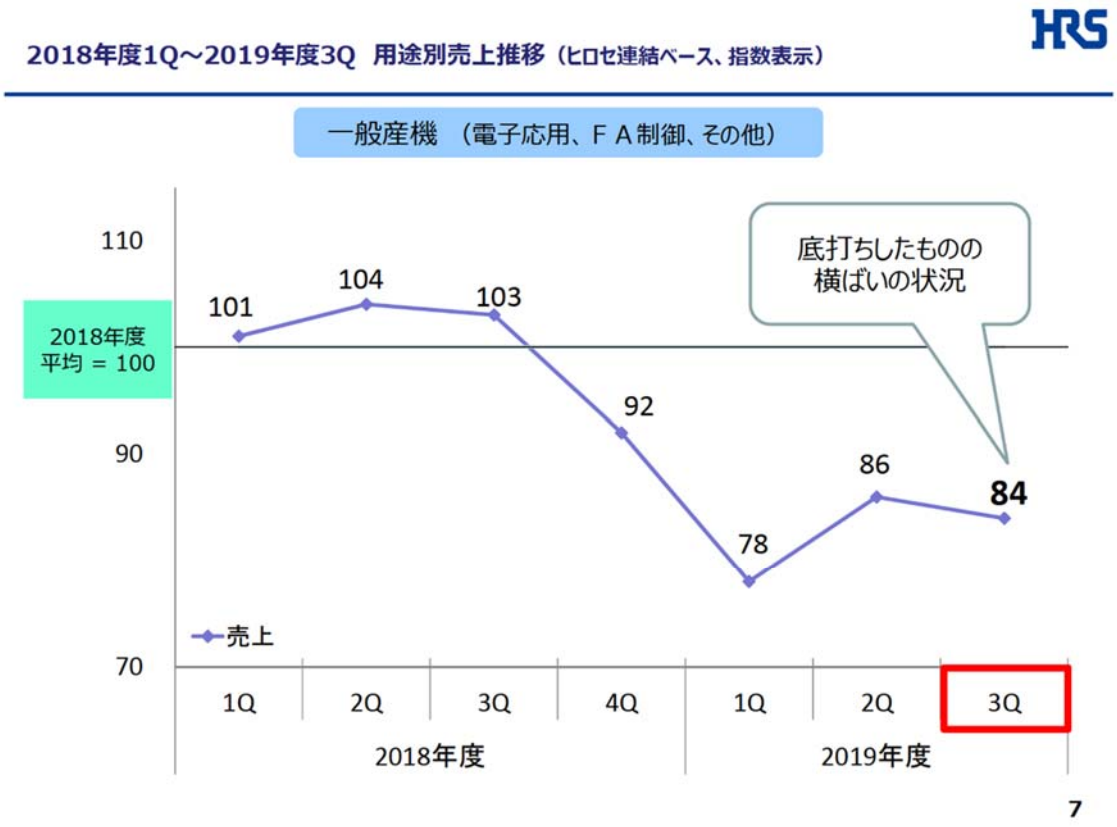
グラフで説明させていただきます。まず全体としましては受注、売上とも横ばいの状況です。前年を 100 とした指数でグラフは説明しておりますけれども、売上が 100、それから受注が 99 という結果でございます。



続きましてスマートフォン向けになります。こちらは指数にしまして 2Q が 123 から 3Q で 109 と落ちておりますけれども、これは主に韓国のところが元々下がる見込みというところもあり、中国もピークが若干過ぎるといったところで、季節性の傾向で下がっているところがございます。ある意味、2Q と 3Q を足すと高水準で今期も進んできたという印象であります。



続きまして自動車です。ここは自動車自体の販売が不振というところで、回復が弱いというところです。一見すると第 3 クォーターは回復傾向に見えるわけですけれども、本来であればもう少し高いところがほしかったわけでありまして、そういった意味では、ちょっと残念な結果だったというところであります。



最後に一般産機向けでございます。こちらも底打ちはしている感覚は持っているんですけれども、売上は全てが悪いわけではなく、受注も反転しているものもあるわけです。産機全体としては、回復感というところがまだ実感できていないというところでございます。底打ちしたものの、横ばいの状況が続いているというところです。

受注の数字は開示しておりませんので印象だけなんですけれども、受注に関しましては売上よりも良い方向に向いてきたなという感覚はあります。強く戻ってくるかといったらそうではないんですけれども、回復傾向が見えている状況ではあります。

2019年度 第3四半期 連結決算概要

HRS

（金額単位：億円）

	2018年度3Q（2018/12月期）	2019年度3Q（2019/12月期）	増減額（対前年同期比）	増減比（対前年同期比）
売上高	**959.9**	**915.3**	**-44.6**	**-4.6%**
売上原価率	55.1%	57.2%	2.1	
販売・管理費比率	24.1%	24.9%	0.8	
営業利益	**199.9**	**162.1**	**-37.8**	**-18.9%**
(%)	20.8%	17.7%	-3.1	
税引前利益	**212.4**	**169.2**	**-43.2**	**-20.3%**
(%)	22.1%	18.5%	-3.6	
当期利益	**152.2**	**119.8**	**-32.4**	**-21.3%**
(%)	15.9%	13.1%	-2.8	
総資産残高	**3,396.9**	**3,441.9**		
自己資本比率	**90.0%**	**89.2%**		
1株当たり当期利益	**416.08円**	**328.53円**		

（注）郡山水害費用(10.1億)を含みます

8

そして P/L になります。第 3 クォーターの累計で売上が 915.3 億円。前年同期比でマイナス 4.6%、額にしてマイナス 44.6 億円の減収であります。営業利益が 162.1 億円、利益率が 17.7%、対前年同期比でマイナス 18.9%、額にして 37.8 億円の減益でございます。税前利益が 169.2 億円、当期利益が 119.8 億円となっております。総資産残高は 3,441.9 億円、こちらは後ほど B/S でまた詳細を申し上げます。

それから右下に小さく書いてありますけれども、郡山の水害費用を 10.1 億円程度、この第 3 クォーターに実は計上しております。福島県の郡山市に郡山ヒロセという私どもの工場が阿武隈川の河川からちょっと近いところにあり、そこが決壊しました。約 1 メーター強、その工場の 1 階部分が水に浸かりました。

水自体は 1 日、2 日ぐらいですぐ引いたわけですけれども、1 階に置いてある生産設備類、建物、エレベーター、空調関係の設備類が水に浸かり、特にモーターを使っているようなものは使えなくなってしまったといったところです。この 10 億円の中の大きな部分が、資産の除却損であります。

在庫類はそんなに量は置いておりませんので、そんなに大きなものではございませんでした。それから原価や経費なども若干あります。こちらは後ほどもう１回説明申し上げますけれども、昨日の短信の注意書きのところにもございますとおり、保険で補填される予定になっております。

ここは保険会社には損害関係の書類は既に提供済みでありますので、今期中にはそこは決着がつくのではないかと思いますが、第３クォーターではそこの補填額自体は P/L には入っておりません。現在、協議中で、同程度が補填されるのではないかという見込みであります。

2019年度 第3四半期　対前年同期主要増減

HRS

（単位：億円）

■ 売上高	**44.6 億円 減**（959.9 億円 → 915.3 億円）
	ヒロセ単体　：-43.9 億円 子会社　：-0.7 億円
■ 売上原価率	**2.1 ポイント悪化**（55.1% → 57.2%）
	仕入原価費率：38.5% → **39.1 %** 減価償却費率：8.2% → **10.2 %**
■ 販売・管理費比率	**0.8 ポイント 増**（24.1% → 24.9%）
	231.3 億円 → 227.5 億円 (3.8億円 減少)
■金融収益・費用	**5.3 億円 悪化**（+12.5 億円 → +7.2 億円）
	為替差損益　：　**+3.6 億円→　-2.5 億円**

9

続きまして各主要項目の増減を簡単にまとめた表になっております。売上に関しましては 44.6 億円の減ですけれども、単体側のところで 43.9 億円のマイナス。子会社はほぼ横ばいだったというところです。

それから売上原価率に関しましては 2.1 ポイントの悪化ですけれども、こちらは仕入原価率が若干悪化しており、これはミックスの関係で産機向けのところが予想より減少した関係で、ミックスの変化によるものが大きいというところです。

また、主なところは減価償却費率が昨年に比べて上がっていますが、ここは悪化というよりも先行投資を自動車向けのところで結構やってきており、意識を持って取り組んでいるところで、、ここは計画どおりのものでございます。

販管費に関しましては、率としては 0.8 ポイント悪化しておりますけれども、額としましては昨年に比べましては 3.8 億円の減少というところであります。

それから金融収支に関しましては、ここは為替のところで、今年度は昨年に比べて円高傾向になっておりますので、そこで悪化しているものであります。

2019年度 第3四半期　対前年同期　変動分析

HRS

（単位：億円）

	売上	営業利益	営業利益率	税前利益	税前利益率
2018年度 3Q実績	**959.9**	**199.9**	**20.8%**	**212.4**	**22.1%**
為替影響	-29.3	-12.1		-18.6	
減価償却費増		-16.2		-16.2	
人件費増		-1.0		-1.0	
物量減	-15.3	-6.8		-6.8	
土地売却益		8.4		8.4	
郡山水害費用		-10.1		-10.1	
その他		-0.2		1.1	
変動額計	-44.6	-37.8		-43.2	
2019年度 3Q実績	***915.3***	***162.1***	***17.7%***	***169.2***	***18.5%***

10

続きまして、その変動をもうちょっと数字で一覧にしたものです。為替の影響が売上 29.3 億円、営業利益で 12 億円程度あったというものです。それから先ほどの償却費の率のところで申し上げましたけれども、償却費増、営業利益で約 10 億円ぐらい影響があるというところであります。

それから物量のところは、売上 15 億円程度、利益で 7 億円程度影響があり、利益のマイナス要因があるというところです。

それから土地の売却益については、第 1 クォーターの決算でご説明申し上げておりますけれども、今期、8.4 億円の益がございます。これは今期の特殊要因でございます。

それから先ほどのとおり、郡山の水害 10.1 億円、営業利益に影響がございます。3Q のところで見た場合、その 10 億円減があるということですが、この分が 4Q のところで戻ってくるのではないかという予測を織り込んでございます。

2019年度 第3四半期　為替影響

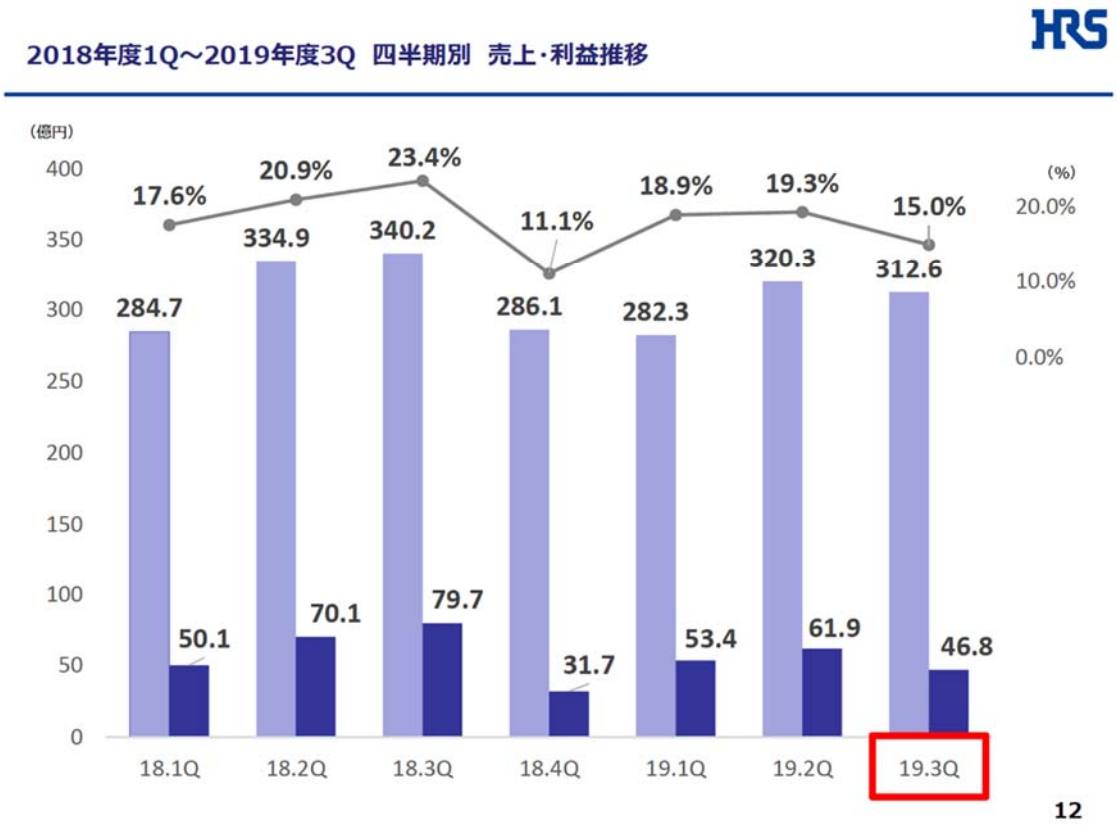
	2018年度 第3四半期	2019年度 第3四半期
為替レート：US$	111.14円	108.67円
為替レート：€	129.49円	121.05円
為替レート：100ウォン	10.04円	9.23円

（単位：億円）

対前年同期為替影響額	
売上高	-29.3
営業利益	-12.1
税引前利益	-18.6

11

続きまして、為替の影響だけを取り出したものになります。先ほどのとおりドル、ユーロ、ウォン、全て円高になっておりまして、売上で 29.3 億円の減、営業利益が 12.1 億円の減。税前利益で 18.6 億円の減という結果でございます。



続きまして、四半期別の売上と利益をグラフで表示したものでございます。第 3 クォーターのみの売上が 312.6 億円、営業利益が 46.8 億円で、利益率が 15％ということであります。この郡山の 10 億円を除くと率にして 18％台になるというところが、実質的な私どもの受け止め方でもございます。

連結貸借対照表主要増減

（億円）

区分	科目	2019/3末	2019/12末	増減額	備考
資産	現金及び現金同等物	523.2	466.7	-56.5	配当金支払、投資有価証券購入 他
	営業債権及びその他の債権	295.4	317.1	21.7	売上債権 +18.7
	棚卸資産	139.4	145.6	6.2	
	その他金融資産	1,728.8	1,733.3	4.4	
	有形固定資産	627.4	639.7	12.3	菊名第2棟取得等
	使用権資産	—	46.8	46.8	IFRS16号適用により、リース取引を資産計上
	その他	100.0	92.7	-7.3	
	合　計	3,414.3	3,441.9	27.6	
	現預金合計	1,727.6	1,649.2	-78.4	

13

続きまして B/S です。傾向としてはそんなに大きな変化はないんですけれども、期初から、3 末からの比較になっておりますので、現金に関しましては中間配当の支払で減らしている状況。それから売上債権は若干のプラス。それから有形固定資産は、これは菊名の 2 棟と書いてありますけれども、金型開発のところの増築をしておりますので、ここで増があるというところでございます。

それから今年度からですけれども、IFRS16 号の適用、いわゆるリース会計の適用をしておりますので、資産のところ、それから負債のところに計上がございます。

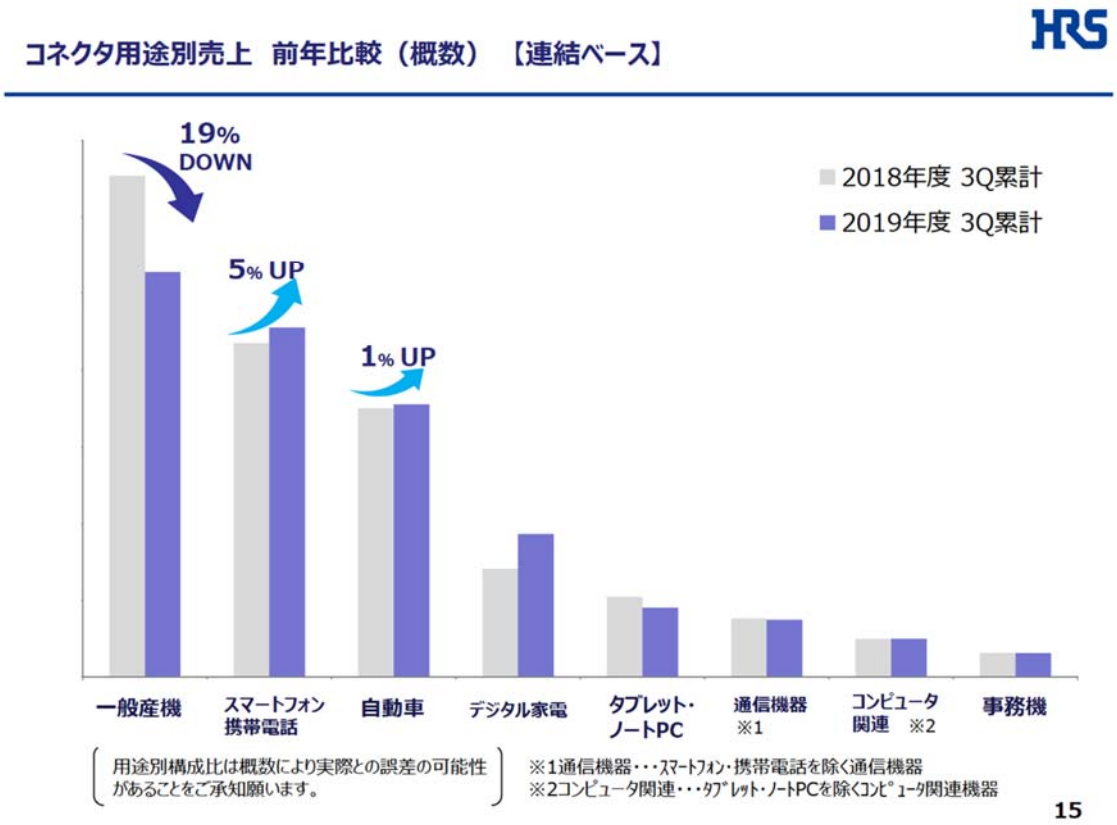
連結貸借対照表主要増減

（億円）

区分	科目	2019/3末	2019/12末	増減額	備考
負債	支払債務及び その他の債務	193.1	177.2	-15.9	有形設備未払金 △9.8 仕入債務 △7.6
	リース負債	—	46.9	46.9	IFRS16号適用によるリース負債計上
	未払法人税	30.9	21.1	-9.8	法人税中間納付
	その他	117.1	125.3	8.2	
		341.0	370.4	29.4	
純資産	資本金及び 資本剰余金	207.2	207.1	-0.1	
	利益剰余金	3,033.5	3,051.0	17.5	当期利益 119.7 現金配当△87.5 自己株消却による振替 △14.9
	自己株式	- 232.1	-244.6	-12.5	自己株式取得 △27.5 ／消却 +14.9
	その他	64.8	58.0	-6.8	
	合　計	3,073.3	3,071.5	-1.8	
負債及び純資産合計		3,414.3	3,441.9	27.6	

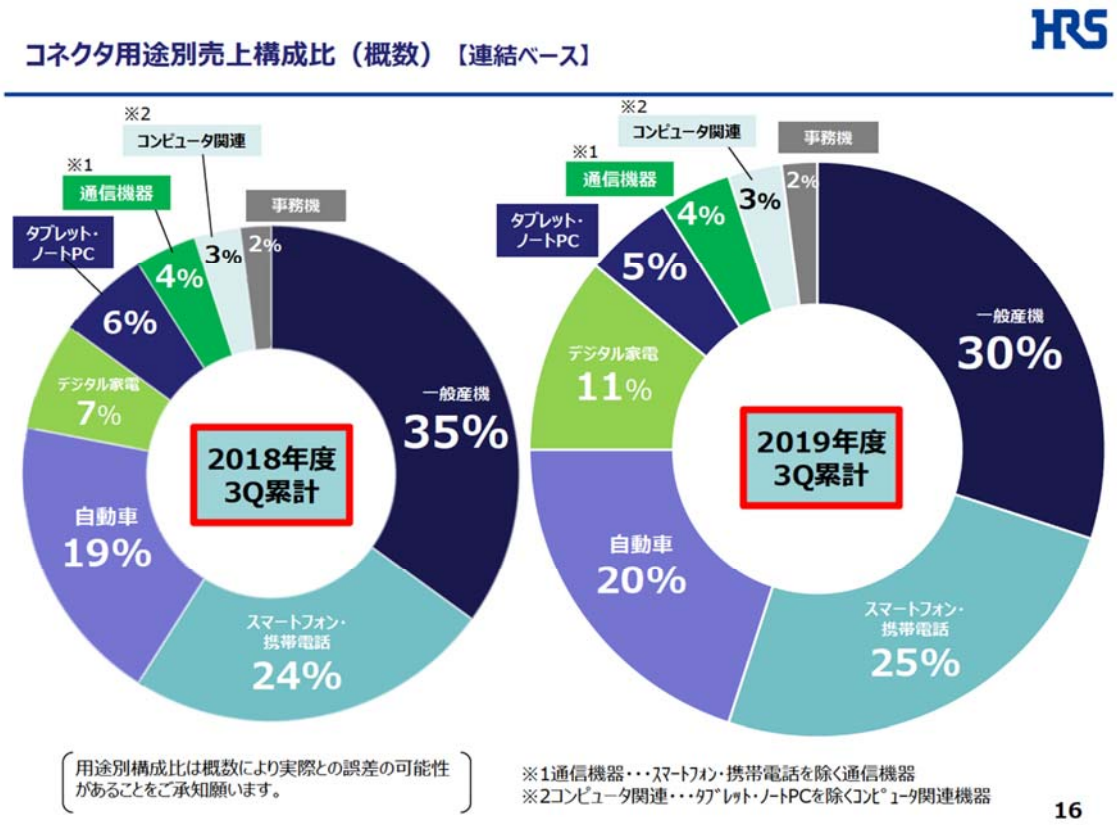
14

次のページが負債と純資産でございます。そのリース会計のところが今年度増えた項目でございます。



続きまして、分野別の動向に関してです。冒頭の概要のところでも申し上げておりますけれども、一般産機が前年に比べまして売上 19％のダウン、スマートフォン向けのところが 5％のアップ、自動車向けが 1％のアップという結果であります。

デジタル家電は、依然好調だという傾向であります。数字はありませんけれども、大体 3 割ぐらい昨年に比べて上がっている傾向。これは 2Q までの傾向と変わりないところであります。

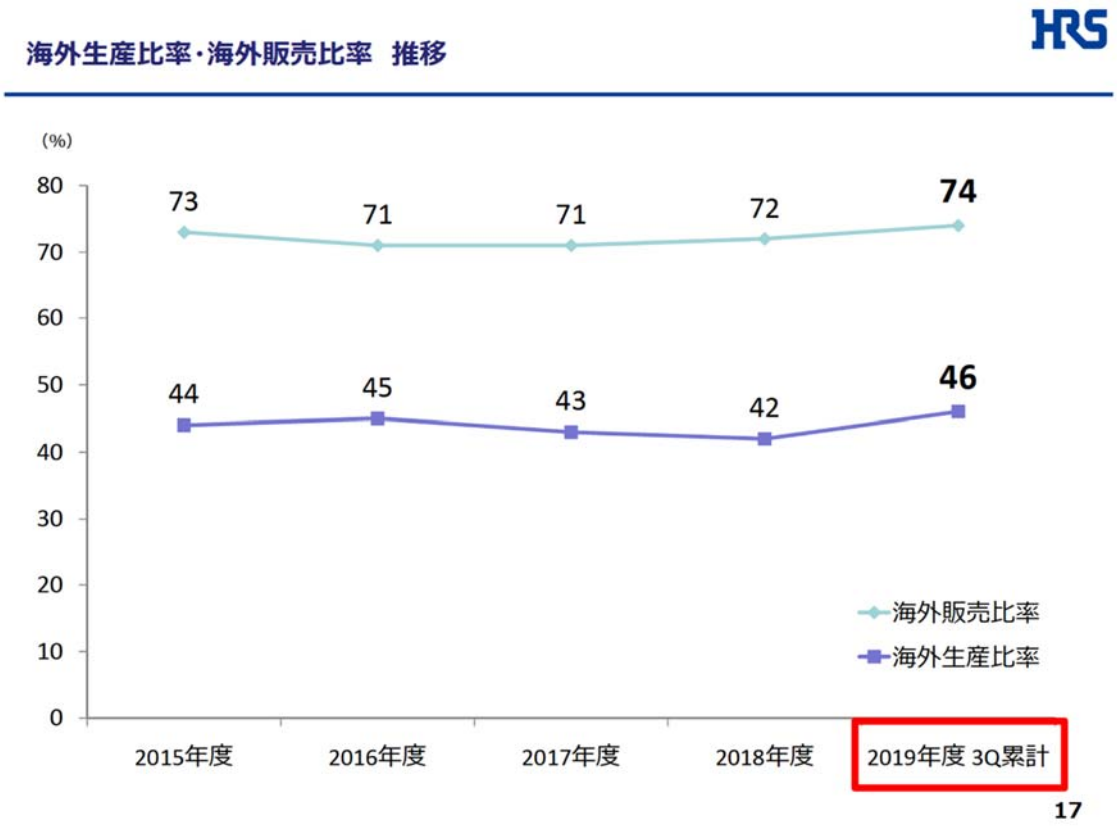


続きまして、それを分野別の構成比にしたものであります。ここのかたちも 2Q と大体同じような構成になっております。

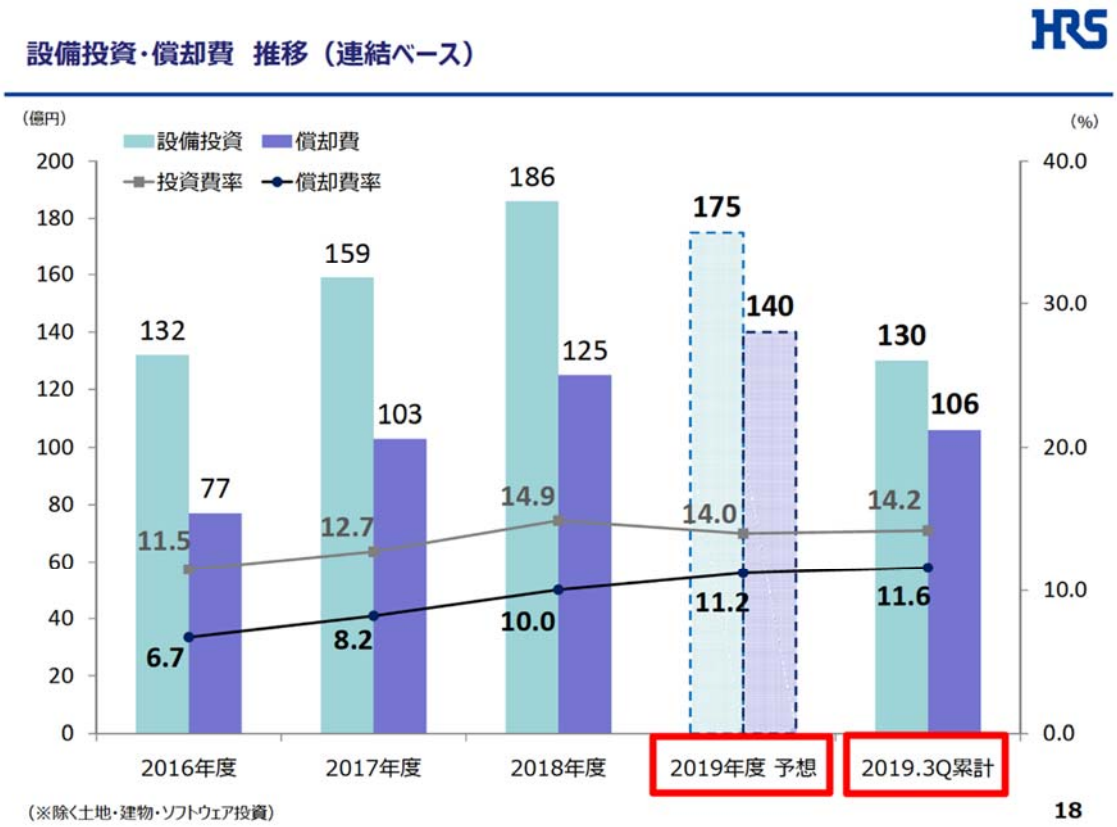
一般産機向けのところが昨年度の 35％から 30％に下がって、約 5 ポイント下がっているというところです。それからデジタル家電のところが、11％の構成比に上がっているというところであります。

デジタル家電のところをちょっと言い忘れていました。ここの伸びのところは、昔ですとデジカメやテレビとか、そういう時代も私どもはあったわけですけれども、最近ですと中国で生産されているイヤホンやスピーカーがとても強い状況です。いわゆるスマホに接続するようなコンシューマみたいなものが、結構皆様、若い方を中心にとてもはやっておりますので。

そちらのほうで結構、上位メーカーから幅広く私ども取れているという結果で、恩恵を受けております。品物自体は元々スマホで開発したものが、そのまま転用されてみたいなところがあります。私どもにとってもありがたい商売ですし、お客様にとっても比較的新しいものが安く、入手しやすさがあるという、実績があるというところで恩恵を受けております。



続きまして海外比率になります。販売比率は昨年度の 72%から 74%というところでアップしております。生産比率が昨年度の 42%から、この第 3 クォーター累計で 46%というところで、販売も生産も上がっております。これは韓国の比率が上がっているというところです。特に生産のところも連動して上げているのは、スマホやコンシューマ市場向けのマイクロコネクタのところです。韓国の私どもの子会社のヒロセコリアの生産を増やしているという、そういう事情であります。



続きまして設備と償却になります。グラフの一番右肩の第 3 クォーターの累計のところですけれども、設備投資が 130 億円、償却費が 106 億円という結果でございます。それからちょっと補足で、R&D 費用ですけれども、第 3 クォーター累計で 92 億円の結果でございました。

設備・償却に関しましては年間の予想、これは年初のものから変更はございません。それから第 2 クォーターからの変更もございません。大体、計画に沿って行われているかなと思います。ただ、設備が若干強めに第 3 クォーターに入りました。内訳としましては第 3 クォーター、42 億円の設備投資でありました。

ここは郡山の復旧の、いわゆる設備の買換えみたいなところがちょっと多めに入ったというところでございます。ある程度ここは済んでおりますので、4Q はまた元に戻って、大体年間 175 以内のところに入ってくるのではないかなと思っています。

償却に関しましては年間の 140 億円、若干オーバーがあるかなと思いますけれども、大体想定線に近いところかなと思っています。

それから R&D 費用は年間 130 億円で予定は変更はございません。

2020年3月期　業績予想（連結）

HRS

2019.11　公表値から変更ありません。

（金額単位：億円）

	2018度（2019年3月期）実績		2019年度（2020年3月期）		第3四半期累計 対前年実績		通期 対前年実績	
	第3四半期累計	通期	第3四半期累計 実績	2019.11 修正公表値	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	959.9	1,245.9	915.3	1,250.0	-44.6	-4.6%	+4.1	+0.3%
売上原価率	55.1%	56.1%	57.2%	58.2%				
営業利益	199.9	231.6	162.1	220.0	-37.8	-18.9%	-11.6	-5.0%
(%)	20.8%	18.6%	17.7%	17.6%				
税前利益	212.4	246.7	169.2	230.0	-43.2	-20.3%	-16.7	-6.8%
(%)	22.1%	19.8%	18.5%	18.4%				
当期利益	152.2	178.9	119.8	175.0	-32.4	-21.3%	-3.9	-2.2%
(%)	15.9%	14.4%	13.1%	14.0%				
一株当り当期利益	—	489.46円	—	479.94円				
一株当り配当	120円	240円	120円	240円				
連結配当性向	—	49.0%	—	50.0%				

為替レート	2018年度 実績	2019年度 3Q実績	2019年度 予想
1US$	110.26円	108.67円	108.75円
1€	129.85円	121.05円	121.29円
100won	10.04円	9.23円	9.23円

19

最後になります。年間予想に関しては、第 2 クォーターの 11 月に公表しておりますところからの変更はございません。売上 1,250 億円、営業利益 220 億円、利益率 17.6%というところで、これを予定してまいります。

為替の年間の予想としましては、若干足元が円安傾向がありますので、ドルが 108.75 円というところで予想しています。ユーロとウォンに関しましては、この記載のとおりになります。

〔News〕CES2020 Innovation Awards ダブル受賞

本年度ヒロセ電機は２部門にて受賞いたしました。

CESは、毎年1月にアメリカのラスベガスで開催されるコンシューマ・エレクトロニクス分野における世界最大規模の見本市です。“CES Innovation Awards”は、28の製品分野で注目すべき製品が表彰される国際的な賞です。

【 FX26 】Vehicle Intelligence & Transportation部門

FX26シリーズは、EV・HEVの基幹製品であるインバータ・モーターコントローラ等パワートレインの内部接続用、140℃耐熱・高耐振構造基板対基板フローティングコネクタです。従来より小型化を実現、品質とトータルコストの低減をサポートします。

【 BM46 】Mobile Devices & Accessories部門

BM46シリーズは、5G対応モバイル端末向けに開発されたマルチRF対応基板対基板コネクタです。優れた高周波特性を実現しつつコンパクトなサイズでも破損リスクを軽減する堅牢な設計としており、端末の小型化と生産性向上に貢献します。

20

本編の説明は以上になりますけれども、最後に一つトピックスを入れてございますので、簡単にご紹介させていただきます。

CES2020 の Innovation Awards というところで、私どもの品物が受賞いたしました。CES は皆様ご存知のとおり、毎年 1 月に年明けのころ、ラスベガスで行われているコンシューマ・エレクトロニクスの賞でございます。最近は自動車関係が結構強いというところで有名でありますけれども。

こういう賞みたいなところは毎年行われているんですけれども、私ども、この二つの部門、FX26 という品物で、これが Vehicle Intelligence & Transportation 部門で受賞しました。これは車載向けで、パワトレで内部接続用のフローティング Board to Board コネクタでございます。昨年リリースをしているものですけれども、特に EV の普及に伴って、これから販売も伸びてくるというものだと考えております。

それからもう一つが、Mobile Devices & Accessories 部門で、BM46 という 5G スマホ向けに開発したマルチ同軸の Board to Board コネクタでございます。5G のスマホは今後、増えていくところで、そこの結構早くから出していた実績が認められたのかな、というところで、とてもありがたく受け止めております。

特に CES という賞自体、どちらかというとセット側のそういう賞でございますので、こういう部品でいただけたところがとてもありがたいなと思っております。

私からの説明は以上になります。続きまして管理本部長の福本より、全体感ならびに各種の説明をさせていただきます。

福本：おはようございます。管理本部の福本です。今日もたくさんご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

私のほうは 2019 年度、これはまだ約ふた月ほどございますけれども、いくつかの観点からお話させていただきます。

まず第一にビジネスの環境です。自動車、産機、スマホ・民生、これを 3 本柱として、中期的にも伸ばしていくということで、いろいろ取り組んでおります。

ご存知のとおり、中国経済の停滞あるいは米中の貿易摩擦、あるいは自動車の販売不振ということで、ここまで自動車向け、あるいは産機向けのビジネスは必ずしもはかばかしくないということでありました。それとスマホ・民生関係は比較的堅調に、我々のマイクロコネクタもいろいろ採用していただきまして、進めている過程ではないかということでございます。

一方、これは我々のヒロセ電機だけではないんですけれども、やはり企業を取り巻く環境はいろんなことが起こるということを非常に実感させられた年でもあります。上期まではどちらかというと、通常オペレーションでやっていけば目指すところに届く感じでありました。

先ほども言いましたとおり、10 月に台風 19 号の影響で郡山ヒロセ、そこが水害に遭いました。ここのところはやはり約 10 億円を超えるような被災の費用が発生したということで、3Q の決算にも織り込ませていただきましたので、見かけ上は営業利益が 15%。ただこれを除きますと 18.2%ということで、もちろん我々が目指している本来の収益性には欠けていますけれども、本来の稼ぐ力というところでは 18.2%の力がまだあるということでございます。

実際には郡山の被災もほぼ復旧しまして、昨年末にもう通常オペレーションをしておりますけれども、こういったこともいろいろあったなと思います。

それと 11 月、12 月です。この辺では皆様もご存知のとおり、最近メディアでの取り上げが少なくなったと思いますけれども、香港でデモがいろいろ起こりました。我々のところも香港にも販売会社、あるいは IPO の拠点があり、オフィスの近くでそういった抗議デモが起こりまして、従業員がオフィスに入れないという局面、在宅勤務という局面がありました。これらについても対応してまいります。

それと 1 月に入りまして、ご存知のとおり新型のコロナウイルスですが、当社も製造拠点と販売拠点が中国、香港にあるわけですけれども、やはり現状は中国当局からの指示のとおり、春節休みを延長しまして、2 月 10 日から再稼働の予定でございます。

ここのところは、やはり従業員、家族の健康、安全を第一優先と考えまして、当面日本と中国間、あるいは我々の海外拠点と中国間の往来については規制をかけております。

様々なことが起こりますが、想定外といっていられない世の中になっており、様々な変化にやはり対応していくことが、企業として非常に必要だと思っております。今後、リスク管理、対応力をさらに付けて、大きな取りこぼしがないようにやっていきたいと思います。

例えば、郡山工場につきましても 33 年前にこういった大洪水があって、水害に遭ったことがあるんですけれども、何年かに 1 度は起こってくるということもありますので、この対応をいろいろ検討を進めておりますので、また決まった段階ではこういった場でご報告させていただきたいと思います。

それと、やはりいろんなことで会社に来れない、日本もそういうことが今いろいろ起こりつつあるかもしれません。これはやはり海外の販社、製造拠点も、リモートワーク、これが遅まきながらできる環境が整備されております。予期しない事態に対しての対応力も付けていきたいと考えているところでございます。

あと三つ目というか、やはりヒロセ電機が成長、収益性を向上していくエンジンはやはり開発力とモノづくり力でございます。

昨年の 10 月、11 月と東京、大阪で技術展を開かせていただきました。非常に盛況で、両会場合わせて 6,700 人の来場者がございました。前回の集客を上回る来場者でございまして、我々の特に若手のエンジニアとお客様のエンジニア、あるいは購買部門の方と、非常に熱いやり取りができたのではないかと思いますし、また当社の開発力、技術力ももう一度ご認識いただけたことがあるのではないかと感じております。

CES のイノベーションアワードについては、二つのコネクタが今回、幸いにも受賞することができたのですが、やはりこれも一つは技術力あるいは開発力というか、お客様のニーズに沿った線での開発ができたのではないかと思います。

どちらかというと、これはコンシューマのセットが中心の賞だと思いますが、そういったことでいろいろ当社の開発力、技術力をもう一度再認識していただいた、一つの例かなとも思っております。

あと開発力、モノづくり力を強化するということで、生産技術部門を、今般、開発を司る技術本部というところに編入いたしました。開発とモノづくりの強化、それとスピードアップをやっていこうということで取り組んでおります。

昨年の 10 月に編入したばかりですので、すぐ成果が出ているかというと、まだこれからのところはありますけれども、これから開発力、モノづくりをさらに強化、スピードアップを図っていきたいと感じているところでございます。

先ほど 1 点、言い忘れたことがあるんですけれども、現在の新型コロナウイルスの影響、業績インパクト、多分これを今日、聞きたいという方が多いんじゃないかと思います。残念ながら今現在、我々の販売会社、製造会社、休業中でございます。それと我々のお客様、これも休業して、お客様と我々の間でのやり取りが非常に今、少ない状況でもあります。それとサプライチェーンも非常に複雑なので、どういう影響が出てくるかはまだ分かり切っておりません。

そういうことで、現時点では申し訳ありませんけれども、これにつきましてはコメントが今日の段階ではできない状況でございます。引き続きインパクトの調査を続けていくということになります。予定どおり 2 月 10 日から操業が開始できれば、インパクトは非常に少なく済むと思いますけれども、それがさらに 1 週間、2 週間、あるいは 1 カ月と延びるようなことがあると、少しインパクトが出てくるということでございます。

いずれにしてもこのインパクトにつきましては、今年度の業績予想には現時点では、よく数字が分かりませんので、入っていないということでございます。そこのところを重ねてお伝えいたします。

あともう一つは、企業統治とガバナンスというところでございますが、取締役、監査役の指名あるいは報酬等にかかわる手続を公平性、透明性、客観性を強化するということで、指名報酬委員会を設置することといたしました。

実際の設置は 4 月 1 日からでございますけれども、ここにつきましては現状 4 名以上の委員で、半数以上が独立社外取締役、または独立監査役を入れてやることにいたします。ここは諮問機関ですので、ここから諮問された内容を取締役会で決議していくかたちになります。

いずれにしても取締役の選任・解任、代表取締役の選任・解任、あるいは後継者の育成について、この報酬委員会でいろいろ検討して、やっていくかたちになるということでございます。

それ以外にもいろいろ、これから社外取締役の割合、あるいは昨年からお約束している中期資本政策、これについても検討を進めております。次回の決算発表説明会、これは 5 月の 8 日が発表、そ

れと 5 月の 11 日が説明会の予定をしており、その場でご報告できるように進めていきたいと思っております。

会社としてはここ何年間か 1,200、1,300 前半に満たない売上、利益率も 18%とか 17%となっておりますが、売上の伸長と利益率の回復は確実に取り組んでまいります。

その中で繰り返しになりますけれども、やはり開発力、モノづくりの強化とスピード対応です。リスク管理、対応力の強化、さらにガバナンス、企業統治の強化を進めてまいります。良い意味での強化だと思います。

また、働きがい、やりがいのある職場、あるいは人材の育成も企業の生命線だと思いますので、ここにつきましてもしっかり取り組んで、中期的な安定成長、収益性の向上を確実に行ってまいります。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。